

# 土木を題材にしたアニメ映画 「パッテンライ！！」を上映して - アンケート調査結果から -

栢山 清人<sup>1</sup>

<sup>1</sup>正会員 (財)全国建設研修センター 試験業務局(〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-30)

E-mail:k\_masuyama@jctc-g.com

「パッテンライ！！」は、全国の映画館やホールで順次上映されてきており、鑑賞者は小学校低学年から高齢層まで多岐にわたり、土木界にとっては、一般市民の土木理解につながる有効な作品となっている。

土木技術映像委員会では、「イブニングシアター」と銘打って各テーマを決め、映画会を開催し(2001年～)、その後web上でアンケート調査を実施している。「イブニングシアター」では、アニメを取り入れた作品は、主に夏休みを利用して特別上映会として親子で鑑賞できるように、市民ホールを活用して上映している。

本報告では、「パッテンライ！！」に焦点をあて、小・中学生を対象に行った映画会のアンケート調査と土木技術映像委員会が実施しているアンケート調査(一般対象者含む)結果より、大人と子供がどのような感想を持ったか、また、今後授業や土木の裾野を広げるための参考となれば幸いである。

**Key Words : パッテンライ, アニメーション, アンケート調査**

## 1. はじめに

虫プロダクションには、「伊勢湾台風物語」(平成元年)、「おーいアダッチー」「千本松原」(平成4年)、「九頭竜川と少年」(平成10年)という水を中心としたアニメーション作品がある。

その虫プロが、土木分野へ本格的に参入してくる契機となったのが、「土木の絵本」( (財)全国建設研修センター・発行)をビデオ化した「私たちの暮らしと土木」シリーズ(2001)で、「土木の絵本」を執筆した緒方英樹が、3本の原案・脚本を担当し、虫プロとして初めてアニメと実写による教育映像を製作した。その手法が「明日をつくった男」(平成15年・世界水フォーラム参加作品)につながっていく。

このように、「土木の絵本」1～3巻が、虫プロとの連携で教育用ビデオとして製作されると、「総合的な学習の時間」などの教育現場、企業や行政の研修などで活用され、現在に至っている。

さらに、「土木の絵本」4巻目「近代土木の夜明け」、5巻目「海をわたり夢をかなえた土木技術者たち」は、大成建設によりドキュメンタリー映像化され、科学技術映像祭文部科学大臣賞など多数の受賞を得ている。

そして、絵本5巻目の中の八田與一をテーマとしたアニメーション映画が、緒方英樹企画により、「パッテンライ！！」製作委員会(北國新聞社・虫プロダクシ

ン)が立ち上げられ、製作された(表-1)。

「パッテンライ！！」は、全国の映画館やホールで順次上映されてきており、鑑賞者は小学校低学年から高齢層まで多岐にわたり、土木界にとっては、一般市民の土木理解につながる有効な作品となっている。

また、土木技術映像委員会(以後映像委員会と呼ぶ)では、「土木技術者の啓発ならびに土木技術の普及を効果的に行うため、土木技術に関する映像について研究し、それを効果的に活用することにより、土木技術の継承および共有化を推進すること」(内規第1条)を目的として活動している。例えば、技術映像の収集・調査・評価活動を行い、土木図書館映像ライブラリーへの蓄積・保管などである。その一環として「イブニングシアター」と銘打ってテーマを決め、映画会を開催し(2001年から61回開催)、その後web上でアンケート調査を実施している。アニメを取り入れた作品は、主に夏休みを利用して特別上映会として親子で鑑賞できるように、市民ホールを活用して上映している。

本論文では、「パッテンライ！！」に焦点をあて、小・中学生を対象に行った映画会のアンケート調査と映像委員会が実施しているアンケート調査(一般対象者含む)結果より、大人と子供がどのような感想を持ったか、また、今後授業や土木の裾野を広げるための参考となれば幸いである。

表-1 虫プロダクションが制作に関係している  
映像作品（土木学会選定映像）

作 品 名	企 画	上 映 時 間	制作年
九頭竜川と少年	九頭竜川水系治水 百周年実行委員会	30分	1998年3月
水とたたかった戦国武将たち -「信玄堤」のお話し-	(財)全国建設 研修センター	20分	2001年10月
おやとい外国人とよばれた 人たち -日本で最初に鉄道を走ら せた「モレル」のおはなし-	(財)全国建設 研修センター	20分	2001年10月
人をたすけ国をつくったお 坊さんたち -農民のために命をかけた 「行基」のおはなし-	(財)全国建設 研修センター	20分	2001年10月
明日をつくった男 田辺朔郎と琵琶湖疏水	虫プロダクション (株)	86分	2003年3月
パッテンライ！！	緒方英樹	90分	2008年10月

## 2.作品紹介

### 【作品名】

パッテンライ！！ ～南の島の水ものがたり～

【制作年】2008年10月

【上映時間】90分

【企画】緒方英樹

【監督】石黒 昇

【出演】(声)

井上和彦（八田與一）

皆川純子（徐英哲）

瀧本富士子（辻ススム）

儀式ゆう子（新垣美代）

後藤敦（辻謙吉）

一青妙（八田外代樹）

ほか

【主題歌】『受け入れて』

一青窈

【制作】「パッテンライ！！南の島の水ものがたり」  
制作委員会、虫プロ

### 【概要】

「パッテンライ」とは台湾語で「八田がやって来た」の意。

物語は全編アニメーション。舞台は80年前の日本統治下、台湾南部の嘉南平原。当時、嘉南平原は不毛の大地と呼ばれており、そこにダムをつくり、農業水路を張り巡らせて一大穀倉地帯に変えた大土木工事である。物語は、実在の人物・八田與一と八田技師にあこがれて土木を志す台湾人少年と飛行機乗りを夢みる日本人少年が、大土木事業に真正面から立ち向かう大人たちの姿に影響されながら成長していく姿を描いている。また、工事の信憑性を疑い嘲笑する地域農民

たちを説得しながら難工事に挑む姿、夫を支え、やさしく見守る妻外代樹なども描かれている。

本作品は土木の魅力や土木工事の危険性、住民交渉の大切さ等が十分伝えられており、土木啓蒙の役割を十分に果たしている。将来を担う子供達や土木系の学生の人材育成にも役立つだけでなく、土木を知らない一般の人たちも楽しめる作品になっている。

## 3.アンケート調査結果

### (1)映像委員会のアンケート調査<sup>1)</sup>より

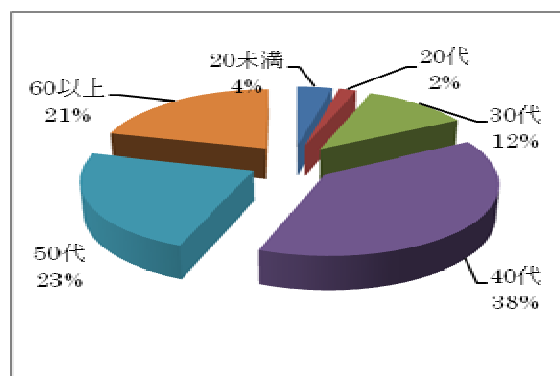
上映場所：文京シビックホール

上映日時：2009年8月5日

参加者総数：254人

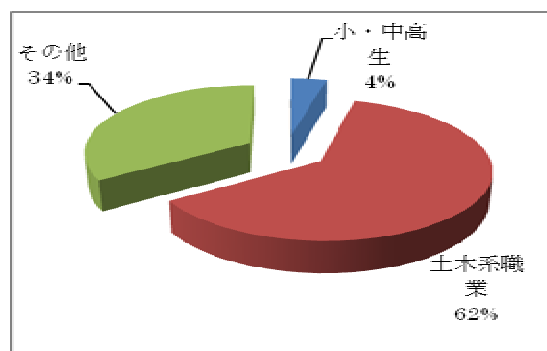
アンケート回答数：53人

アンケート年齢別属性（図-1）



年齢別属性(図-1)

### アンケート就職別属性（図-2）



就業先属性(図-2)

### アンケート調査結果

アンケートは、自由な感想文であるため、ひとまとめにすることは困難であるが、内容から判断して次のような分類（「参考になった」などの単純な感想は除く）となった(表-2、図-3)。

表 - 2 アンケート調査より分類項目

- ・誇り・偉大さ・心意気などを感じた
- ・人となりがわかった
- ・将来の土木技術者(子供たち)へ
- ・土木技術的内容
- ・映画に対する要望
- ・事故に関する内容

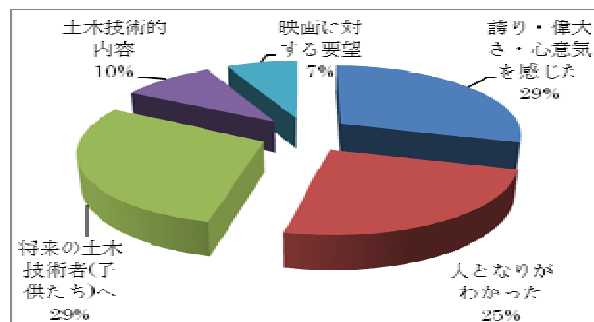


図 - 3 アンケート調査分類項目の比率

〔誇り・偉大さ・心意気などを感じた〕

- ・日本人が台湾で台湾の人々の為に灌漑工事をしたという事実に感動した。日本人として誇りに思う。
- ・久しぶりに土木屋であることに誇りを感じた。
- ・海外で活躍した土木技術者の偉大さを知った。
- ・心意気を学ぶ必要があると感じた。
- ・社会に対する「土木技術者の使命とは何か」ということを再確認させられた。
- ・何のための土木なのかあらためて自分に問い直してみたいと思う。
- ・土木本来のすばらしさを伝えてくれる作品が、世の中にもっと出てくることを望んでいる。
- ・土木技術者の気概とあるべき姿が上手に表現されていて感動した。

等

〔人となりがわかった〕

- ・八田與一は名前くらいしか知らなかったが、詳しいことがわかって感動。
- ・八田技師の意志力・行動力にとっても感動した。
- ・台湾で日本人である八田氏が国境を越えて住民のために偉大な土木事業をしたことを知り、八田氏の生き方に新鮮に感動した。
- ・台湾で一番有名な日本人であると少し前の朝日新聞に出ていたが正直これほど素晴らしい映画とは知らなかった。
- ・土木の仕事は、人々のために役にたつものでなくてはならないことと、八田與一の行動に勇気づけられた。

- ・八田與一の名前と功績は知っていたが、詳しい内容・事業の進捗・生き方がこれにより理解できた。

等

〔将来の土木技術者(子供たち)へ〕

- ・土木を背負う人間がこの映画を見て1人でも多くなればと思う。
- ・今後末永く教育機関で上手に利用されることを強く望む。
- ・土木技術者志向を誘発する背景も感じられたが、子供たちには好評だった。
- ・長編アニメーションとして内容がしっかりと分かりやすく表現されていた。多くの親子が鑑賞することにより土木技術者を目指す子供が増えることを望む。
- ・子供の目線で描いたストーリーは良かった。
- ・学生にも是非見せたい。
- ・できるだけ大勢の子供たちに見てもらいたいと感じた。
- ・将来の優秀な土木技術者を育てるためにも、各地の小中学校での上映会も考えて欲しい。
- ・子供を軸にした目線が良かった。
- ・多くの子供たちやお母さんお父さん方に見て頂きたい。
- ・学校での映写会などにも提供するなど積極的な対応を望む。
- ・小学生や中学生に見てもらい、土木技術者を目指してもらえればと思う。
- ・たくさんの子供たちに見て頂いて土木のすばらしさを感じて欲しい。

等

〔土木技術的内容〕

- ・土木の専門家としては、少し物足りない。
- ・もう少し技術的内容があれば良かった。
- ・災害以降の工事の進捗が一足飛びで少し残念。

等

〔映画に対する要望〕

- ・農民たちがダム之恩恵を被った様子をもう少し描いたらなお良い。
- ・土木技師の賞賛があまりに全面に出過ぎている感じもした。
- ・もう少し地図などを出して、どういう場所なのか、どこから水を引いてくるのかがわかるようにすると、工事の大変さや必要性が理解出来るのではないか。

等

〔事故に関する内容〕

- ・トンネル施工に興味があり、なぜ、ガス爆発したのか科学的に理解したい。

(2)小・中学生の感想<sup>2)</sup>

映像委員会のイブニングシアターのアンケート調査では、大人の意見が多いが、ここでは実際にパッテンライを鑑賞した小・中学生の主な感想を記述する。

(a)小学校 低学年

上映場所 : 弘前大学50周年記念会館  
上映日時 : 2009年7月17日  
対象 : 弘前大学附属小学校 1, 2年生  
感想文 : 28件

- ・おもしろいところは、パワーショベルが回って、乗っている人がくるくる目を回しているところです。(10人)
- ・かなしかった(あるいは、こわかった)のは、トンネルのガス爆発でたくさんの人がまきこまれて死んだことです。(10人)
- ・爆発しても、あきらめないでつくりあげたことがすごいと思った。(6人)
- ・苦労して最後に、水が畑にながれて本当によかった。(5人)
- ・また見に行きたい。(5人)
- ・つぎは、家族と見たい。(2人)
- ・感動したことは、みんなががんばって働いていたことです。そして、ダムができて、水くみに行かなくてもよくなって本当によかった。(3人)
- ・台湾でむかし、田んぼがかれていたのを、日本人が水をひいてお米ができたおはなしです。映画で、ぼくみたいな子供もいておもしろかった。
- ・工事が失敗しないようにちゃんと作戦をたてて考えてつくっていたのがすごい。(3人)
- ・事故をのりこえてダムができたことがすごい。(2人)
- ・映画に出てくる3人の子供たちがおもしろかった。(3人)
- ・パッテンライ(八田)がくると、みんな逃げ出していたのに、最後にはなかよくなった。そのひみつがわかった。
- ・この映画がすごかった理由は、命をかけて台湾の苦しんでいる人たちをすくったことです。
- ・こんな出来事が、むかし本当にあったのでしょうか。(2人)
- ・この映画は、八田という主人公がダムをつかって村

人を助ける話ですが、ぼくは村人がとてもすごいと思った。

- ・わたしが大人になったら、八田さんのように工事をする人や、トンネルを掘る人になって、みんなの笑顔を見たいです。(女子)
- ・この映画のことを忘れないようにしようと思った。

(b)小学校 中・高学年

上映場所 : 長野市松代町文化ホール  
上映日時 : 2009年7月17日  
対象 : 長野市立栄小学校 4, 5, 6年生  
感想文 : 15件

- ・トンネルの爆発シーンが怖かった。悲しかった。(7人)
- ・農民のために第一に考えた工事だったこと、爆発事故を乗り越えて完成させたことなど、頭の中で学習していたこと以外のことを知って良かった。(5人)
- ・八田さんが、台湾人も日本人も同じように接したことがすごい。(5人)
- ・八田與一が最後まであきらめないでやり通したことに感動した。(3人)
- ・自分もみんなを喜ばせることをしたい。
- ・また見たい。
- ・日本統治時代でありながら、人を比べず平等にする。自分だけでなく、みんなの幸せを願う優しさ、そんな感覚をいまの日本も持っていればいいのと思った。
- ・八田さんのおこなった工事の様子がよくわかった。
- ・あきらめないで実現させたことに感動した。
- ・正しいと思ったことを、反対意見などで曲げないで、やりとおすことが素晴らしいと思った。
- ・八田さんの銅像が台湾に建てられたり、いまもお墓参りをされていることの理由がよくわかった。

(c)中学校

上映場所 : 北國新聞社ホール  
上映日時 : 2008年11月12日  
対象 : 金沢市高岡中学校 生徒、教職員、同窓会の団体鑑賞  
感想文 : 12件

- ・自分も夢に向けて頑張ろうという気持ちになった。(7人)

- ・自分以外の人のためにこんなに頑張れる人はすごい。(4人)
- ・一度決めたことに対して、自分の意志を貫き最後までやりきる強い心に感動した。(4人)
- ・すごいチャレンジ精神と行動力に驚いた。(2人)
- ・1つのことに命をかけて頑張る姿はカッコいい。
- ・信じることの大切さを学んだ。
- ・地元の誇りであると感じた。
- ・人間はみんな地球人なんだから、仲良くするべきだと思った。

#### 4.まとめ

昔から良いアニメは子供から大人まで鑑賞でき、親子で会話できたものである。土木を素材としたアニメは小学校の頃から鑑賞する機会があれば将来土木技術者を目指す可能性もあり、裾野を広げるために非常に有効な手段といえる。

映像委員会では、ここ数年親子で鑑賞できるように夏休み期間には、土木に関係するアニメを上映することになっている。しかし、図-1、図-2のとおり40代以降が80%以上で土木系に勤務している人たちが60%と高い。今回のように小学生低学年から中学生までの感想を知ることは貴重な資料となる。

今回小・中学校の映画会に係わった緒方の所見によると小学校低学年にもかかわらず、90分の映画を最後まで見て、映画のストーリーを正確に把握して文章化していることである。これは、イブニングシアターでも同様に子供たちは静かに鑑賞している。感想文の上位の2つは大型パワーショベルとガス爆発シーンに強い注目・関心を示している。

また、女子生徒の「わたしが大人になったら、八田さんのように工事をする人や、トンネルを掘る人になって、みんなの笑顔を見たいです。」との感想があるようにひ

とりでも将来の技術者を目指そうというきっかけにはなったのではないだろうか。

小学生高学年では、「農民のために第一に考えた工事だった。」など土木事業の本質に触れた意見も見受けられた。

中学生では、映画の感動を自分の夢に重ねたり、八田技師の精神性に触発されての感想が多かったようである。これも、イブニングシアターでのアンケート調査〔誇り・偉大さ・心意気を感じた〕と通じるものであると考えられる。

今回の感想文については件数が少ない点また、低学年は、国立の小学校で一般の小学生よりも優秀である点、高学年は、台湾の小学校と交流を続けていて、4年生で八田與一の業績や工事について学習している点、中学生は八田與一の地元の点など一概に一般の小・中学生との比較することも難しいが、少なくとも映画を観ることによってそれぞれに関心や感動を示している。

今後、場所や時間の制約など様々な問題点も残ってるが、パッテンライだけではなく、アニメをはじめとした土木技術映像を機会があるごとに上映することが小中学生の土木への理解、裾野を広げる一端になることは間違いないと考えられる。

#### 参考文献

- 1) 土木学会：イブニングシアター資料集 2008-2021 No42-52, pp.57-62, 土木技術映像委員会, 2010.
- 2) 緒方英樹：土木リテラシー促進に寄与する広報媒体活用の研究 - 「土木の絵本」と「土木偉人アニメーション映像」による展開 - (弘前大学大学院学位論文), pp.214-223, 2011.3

(2011.7.30)

Cartoon movies that make engineering works theme  
"[Pattenrai]" is screened.  
-From questionnaire survey result?

Kiyoto MASUYA

In this report, it is great if the focus is appropriated to "[Pattenrai]", and it becomes reference what impression for the adult and the child to have had from questionnaire survey (The general object person contains it) result the questionnaire survey and the engineering works technological image committee of the movie association that did for small and the junior high school student executing it, and to expand the skirts of a mountain of the class and engineering works in the future.